

住む街から暮らすまちへ

— residents liberalize the space —

— 空間の多様化 質の向上は 居住者にあり —



skeleton



infill



human

+

+

=

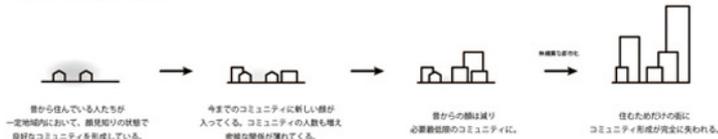
住宅形態の変化



21 世紀以降の日本の展望



コミュニティ形成の変化



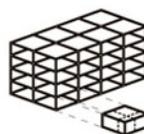
Concept 1 - 新しい居住システム

従来の集合住宅



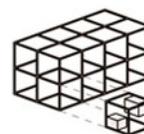
住戸の利便量不足解消のためにつくられた 同じユニットの繰り返し住戸の集合体

スケルトン・インフィル方式 (S/C 方式) の住宅



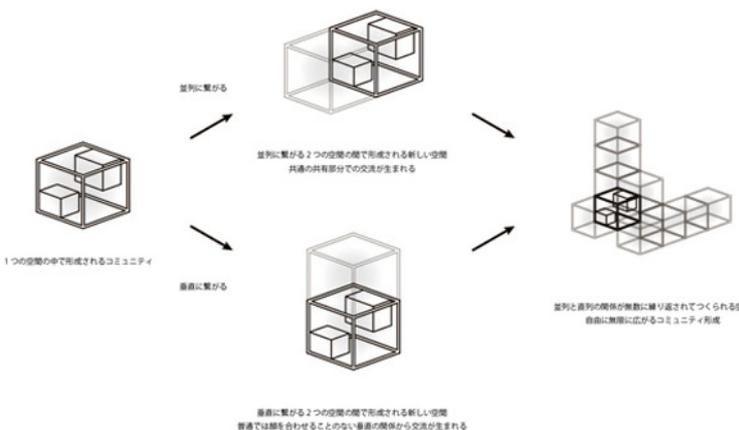
スケルトン部分 (構造体) とインフィル (間取り内装) を分離する スケルトンは 100 年以上の耐久性、インフィルは手軽に変更可能な可変性を重視した建築形態。居住者が住戸内を比較的自由に設計できる

S/C 方式を応用した住宅

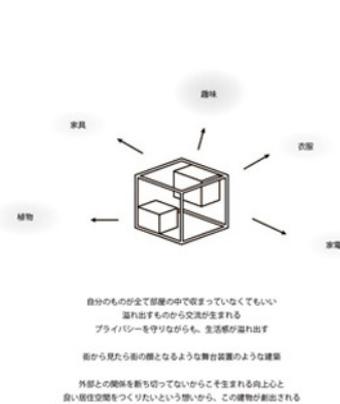


S/C 方式の 2 部分を 1 層の大きな空間 (幅 6m × 高さ 7m) としてその空間に居住者の使い方に合った大きさの住戸を配置していく 従来のよりも大空間にすることにより、空間配置の自由化を図る この配置システムでは、光・風・音・人の動きなどが住戸と住戸の間を縫うように表れ 目に見え、直に感じるものに關心を置き、周辺環境の向上に繋がる。

Concept 2 - コミュニティの広がり



Concept 3 - セルフエイドがつくる良環境



2
 本が好きなのが事に囲まれて暮らす家
 4000




7
 加減とシェアして二人で暮らす家
 5000




10
 広いデッキで家族団圓をする家
 4000



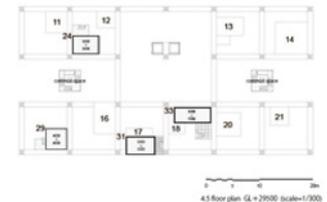
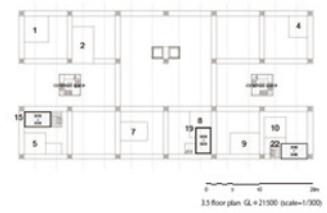

14
 若年夫婦の住む家
 可動壁仕切りで2人の空間と1人の空間をつくる
 4000




15
 間仕切りで用途を分けるメリハリのある家
 3000

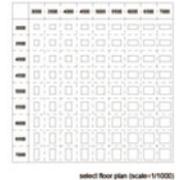



house floor plan (scale=1/1000)



住戸の選択

居住者の利用方法に合った大きさの住戸ユニットを選択する。
 この方法により、身の丈に合った無難のない住戸を得られるとともに
 自分だけの自分だけの部屋という感覚を置き、住戸階級の向上に集
 がるよう設計している。
 自分の時間を過ごす場所は、それ以外の時間はできるだけ共有空
 間で過ごすよう促し隣の人の顔も、下の階の人の上の階の人とも知らな
 いという、住むだけの場所と化している集合住宅の現状に変化を与え
 ている。
 自分で住戸から選択することにより、住宅や建築に興味を持ち、他人
 のことも考えながら居住空間をつつていくシステムを構築した。



25
 若年夫婦の住む家
 特殊構造ができるスクリーン付きの壁を下部に持つ
 7000




30
 サーフィン仲間の人々の家
 ビロウ+部分で多入れ込ることができる
 4000




33
 ファッション関係の人の家
 大収納を可能にした各別部屋を持つ
 7000

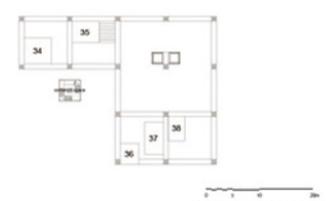


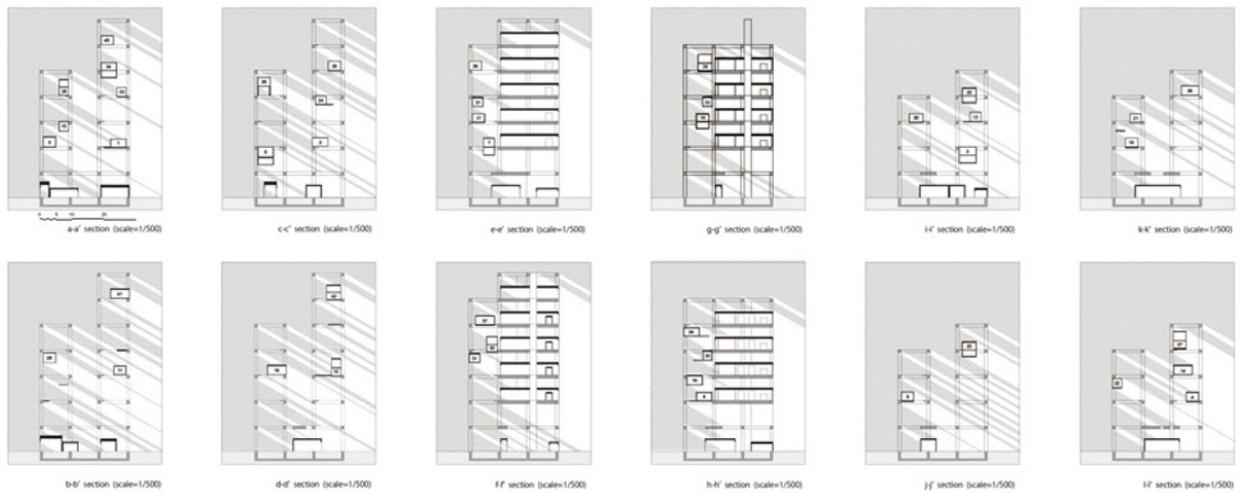
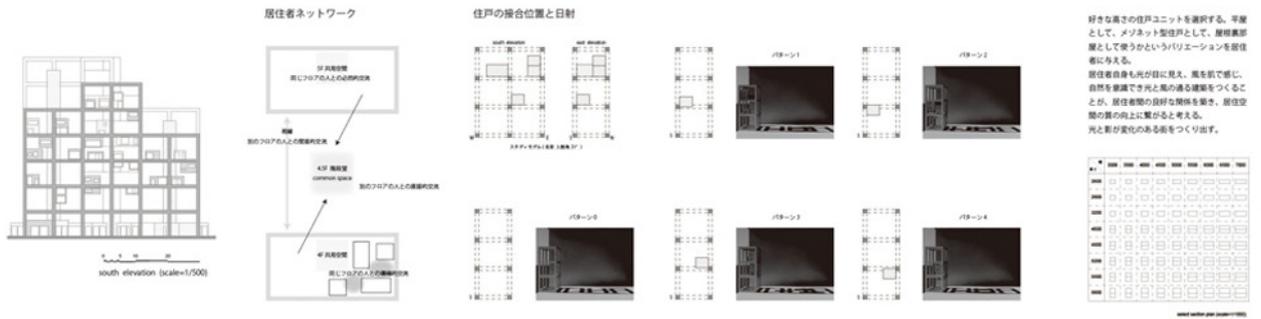

38
 音楽が好きなのが得意に暮れた家
 3000




40
 空を眺めて暮らす最上階の家
 7000







色のない面の人々が色をつけていく このまちだけの、このまちの人々の**居場所** 人の活動が建築を創り出し、自然と建築が一体となって街の**表情**をつくり、柔らかく広がる光が面に**安心感**を与える そしてまちの**記憶**となり、人の**思い**に残る そんな**場所**をつくりたい

